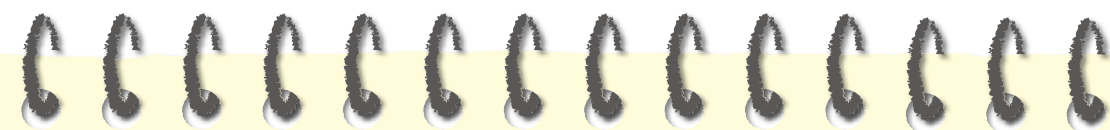




私は2度の脳腫瘍摘出手術を受け、その後不慮の転倒で外傷性脳出血、左片麻痺となりました。何とか車いすで過ごせるようになったころ、作業療法で勧められ手工芸を始めました。塗り絵から始め貼り絵へ。最初は担当 OT さんに切ってもらい貼るだけでしたが、慣れた今はハサミを使って自分で切っています。毎月ごとに季節の作品を院内に展示してもらえるのが励みとなり、私の役割として頑張っています。今年は立体的な作品に挑戦しました。(横田榮子)

横田さんは作業活動導入により活動意欲が向上、生活動作においてもできることは自分でと頑張っておられます。現在は貼り絵作業だけでなく、病前の趣味であった写真撮影実現のために、車いすへの移乗動作の自立に向け、動作練習にも励んでおられます。(担当 OT：小野邦明)



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



金子雄二「サンドアート『花』」

「花」という言葉は、以前、墨で書き額に入れたものを当時の小池百合子環境大臣に手渡し、水俣病の理解を求めた思い出の言葉です。何度も何度も「花」という字を筆で書きました。一番良く書けたものをアクリルファイルに写し、カッターで切り抜いてもらいました。スポンジを使って色を塗った厚紙にアクリルファイルをのせて、上から筆で糊を一所懸命につけました。砂も、白い砂に配色を考えて染料で色を付けてつくり、糊を付けた厚紙にのせました。

(金子雄二)